

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01075

研究課題名（和文）保健医療介護の資源・過程・費用と健康成果における地域システム格差の要因構造の解明

研究課題名（英文）Visualizing Regional Variations in Health and Health Care Performance from the Perspectives of Health Outcome, Process, Resource, and Cost

研究代表者

今中 雄一（IMANAKA, Yuichi）

京都大学・医学研究科・教授

研究者番号：10256919

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 35,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本全国の地域ごとに、健康・医療・介護のパフォーマンス(日常生活自立期間、認知症自立度に基づく健康余命、医療のリスク調整アウトカム、プロセスの質指標等)を定量化した。まず、定量化が難しいパフォーマンスの計測方法を研究開発し、それに基づき全国の値を計測して、ばらつきの実態を示した。その上で、地域社会レベルでの保健医療介護の資源配備状態、社会支援・環境・教育レベル・就業状態等の社会経済因子などの地域間の複雑なばらつきを要因構造とパフォーマンスとの関連につき、幅広く示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療介護の「質」の地域格差の可視化は世界的に発展途上だが、本研究は日本全国の地域ごとに健康・医療・介護のパフォーマンスを定量化し、地域レベルに焦点を充ててパフォーマンスの要因構造を解明したこと、それもミクロデータを用いて全国で定量化したこと自体に学術的意義があり、独自性・創造性が極めて高い。しかも社会保障財源が逼迫し、超高齢社会で需要が拡大する中、資源分布や社会経済特性に係る因子を扱う計測方法と解釈につき広く検討しており、自治体や地域レベルで自らの地域の実態を把握し、改善に向けて検討できる基盤となりうる点において、社会的意義が極めて高い。

研究成果の概要（英文）：We quantitatively visualized the regional clinical performance of health and health care such as healthy life expectancy without activity limitation, healthy life expectancy based on Daily Life Independence Score for People with Dementia score, risk-adjusted health outcomes, and process measures. First, we developed the methods to calculate various health care performance which had been difficult to calculate, and then visualized the variations across the country. Next, we elucidated the relationships between complex factors including socio-economic factors such as medical resource allocation, social support, education, and employment at regional level, and health care performances such as healthy life expectancies and risk-adjusted health outcomes.

研究分野：健康医療介護の経済・政策とマネジメント

キーワード：地域の医療の質 地域の介護の質 健康寿命 平均自立期間 健康・医療・介護の地域システム 医療
介護資源 医療介護費用 拠点化と連携強化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

超高齢化社会、有限資源、逼迫財政のもと、国民の活気ある生活と健康寿命を維持増進する社会システムを構築するための科学的な知見と技術が必要である。我々は、医療の質の地域格差の存在を明らかにし、医療資源の地域格差が拡大傾向にあることを全国レベルで明らかにしてきたが、これらは社会の持続可能性を脅かす状況にあり、社会システムを把握し構築する科学の確立は喫緊の課題である。

そこで、「日本全国の地域ごとの健康寿命と医療・介護のパフォーマンスの要因構造はどうなっているのか」「地域ごとの健康・医療・介護のパフォーマンスの計測方法と、地域におけるばらつきの実態はいかなるものか」という問いを核心とし、地域レベルでの健康寿命・平均自立期間、医療・介護のパフォーマンスについて、社会経済環境特性や資源分布など多様な因子を学際的に広く捉え、それらの関係性を解明する。地域レベルの指標は、平均のみならず、内包する格差に関係する分散・分布も対象とし、本研究で計測方法について研究開発し、その方法に基づいた地域差の算出と要因分析を行う。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下である。

(1) 地域医療システムの質指標の研究開発：地域に焦点を当て、日本全国の地域ごとに健康・医療・介護のパフォーマンスを定量化する（健康寿命・自立期間、5疾病5事業のリスク調整アウトカム、エビデンスに基づく推奨の遵守率、要介護状態のリスク調整悪化率など）。具体的には、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用い、**急性心筋梗塞（AMI）と脳梗塞症例**に対する地域医療システムの質指標を二次医療圏ごとに算出する。

(2) 地域ごとに医療のパフォーマンスの要因構造の解明：高度解析技術を導入して、資源分布や社会経済特性に係る因子を学際的に広く捉えて、要因構造を解明する。具体的には、1) 二次医療圏ごとに**心筋梗塞**患者のリスク調整死亡率を算出し、地域レベルの人口・社会経済的因子、医療資源の量、PCI診療の集約化の指標との関連を調べる。

(3) 地域医療システムの機能分化と連携の把握：1) **病棟医療機能の数値指標の開発と地域医療機能の把握**：様々なパフォーマンスのうち、二次医療圏ごと病棟医療機能、高度急性期・急性期病棟・病床数変化について、病棟機能を定量化し、地域の医療機能の実態把握が可能となる仕組みを研究開発する。また、2) **医療システムにおける連携の可視化・数量化**：脳梗塞入院患者について、医療機関をノード、患者の転院をエッジとする患者共有のネットワーク分析を行う。

(4) 介護DBによる地域の健康余命（要介護度によるもの及び認知症自立度によるもの）およびその要因分析：全国の二次医療圏・市町村レベルで認知症関連の施策・社会状況を可視化・評価するための指標体系を構築し、認知症高齢者の日常生活自立度を不健康とした場合の健康余命（以下、認知症自立余命）の算出及び可視化と認知症自立余命の地域差の要因分析を行う。

3. 研究の方法

(1) 地域医療システムの質指標の研究開発

NDB オンサイトリサーチセンター（京都）で病名と診療行為を用いたアルゴリズムを開発し、レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いて、急性心筋梗塞（AMI）と脳梗塞症例に対する地域医療システムの質指標を、まず二次医療圏ごとに算出する。次に、AMIと脳梗塞入院症例（2014～2020年度）を抽出し、二次医療圏ごとの地域医療システムの質指標を算出した。さらに、二次医療圏の人口のばらつきで、実測値に基づいた指標値は不安定であり、それを補完するために **shrinkage estimate** を算出する。

(2) 地域ごとに医療のパフォーマンスの要因構造の解明

心筋梗塞患者のリスク調整死亡率を二次医療圏ごとに算出し、地域レベルの人口・社会経済的因子、医療資源量、PCI診療の集約化の指標との関連を調べる。

(3) 地域医療システムの機能分化と連携の把握

①**病棟医療機能の数値指標の開発と地域医療機能の把握**：2019年の病床機能報告（病棟票）より選択した項目を各病棟の稼働病床数で除すことを基盤に、医療機能の臨床的な内容を反映し病棟の機能を評価する指標値を開発する。さらに入院基本料ごとに指標値の分布を可視化して参考情報を得て、様々な条件で指標値の閾値を設定し、医療機能を区分する。例えば、高度急性期（指標値が閾値以上）の病棟数と、病床機能報告で病院が主観的に報告した高度急性期の病棟数を比較・表示し、地域での機能区分別病棟数・病床数も表示できるようにし、地域の医療機能の分担や連携、地域医療計画の協議に資する学術的・客観的基盤を作る。

②**医療システムにおける連携の可視化・数量化**：脳梗塞入院患者について、レセプトデータを用い、医療機関をノード、患者の転院をエッジとする患者共有のネットワーク分析を行う。某県の2013～2019年度の国保・後期高齢者医療制度のレセプトデータより急性期脳梗塞入院を同定し、それに連続する入院を脳梗塞による転院とみなしてネットワークを構築し、コミュニティ検出、中心性解析を行う。

(4) 介護 DB による地域の健康余命 (要介護度によるもの及び認知症自立度によるもの) およびその要因分析

全国の二次医療圏・市町村レベルで認知症関連の施策・社会状況を可視化・評価するための指標体系を構築する。認知症高齢者の日常生活自立度を不健康とした場合の健康余命(以下、認知症自立余命)の算出及び可視化と認知症自立余命の地域差の要因分析を行う。

4. 研究成果

4.1. 研究の主な成果

(1) 地域医療システムの質指標算出

受領したデータをデータベース化し、急性心筋梗塞に対する経皮的冠動脈インターベンション (PCI) 実施割合、1 か月以内の心大血管リハビリテーション実施割合、脳梗塞に対する t-PA 投与割合、2 日以内の脳血管リハビリテーション実施割合を地域医療システムの質指標として二次医療圏ごとに算出した。さらに、二次医療圏の人口のばらつきで、実測値に基づいた指標値は不安定であり、それを補完するため、二次医療圏の人口を考慮し、各都道府県の平均に収束するような処理を行い、shrinkage estimate により算出した。Shrinkage estimate は、イギリスの English Indices of Deprivation の算出に使われている empirical logit を用いる方法で算出した。

2014～2020 年度の各指標の平均は、AMI に対する緊急 PCI 実施割合が 65.7%から 70.6%、1 か月以内の心大血管リハビリテーション実施割合が 44.4%から 61.8%、脳梗塞に対する t-PA 投与割合が 4.9%から 6.4%、2 日以内の脳血管リハビリテーション実施割合が 40.4%から 55.1%に変化した。算出した 4 つの指標において、二次医療圏の差が年々縮まってはいたが、まだ大きいばらつきが存在した。

(2) 地域ごとに健康・医療・介護のパフォーマンスの要因構造の解明

データは、(1) 多施設 DPC データ、厚労省の (2) DPC 集計データと (3) NDB を使用した。(1) の 2010～2018 年度の AMI 症例から作成した Killip 分類などを用いた院内死亡予測モデルを用い、(2) より二次医療圏ごとのリスク調整死亡数を算出した。(3) より、集約化の指標として 2016～2018 年度の二次医療圏ごとの緊急 PCI 症例数に対するハイボリュームセンターで実施された症例数の比、即ちハイボリュームセンターへのアクセスの指標 (以下、アクセスの指標) を算出した。この指標と、二次医療圏の人口・社会経済的、医療資源関連因子を説明変数、リスク調整死亡率 ($[\text{実際の死亡数}]/[\text{リスク調整死亡数}]$) を目的変数とした部分的最小二乗 (以下 PLS) 回帰分析を行った。二次医療圏ごとの AMI のリスク調整死亡率は 0.6 から 1.4 までであった。PLS 回帰分析より、リスク調整死亡率と正の相関がある 2 つの成分が同定された。成分 1 は、高齢者の割合など、地方部の特徴と考えられる因子の負荷量がプラスで、成分 2 は、病院の密度がプラス、人口当たりの医師数がマイナスであった。アクセスの指標の負荷量は 2 つの成分共にマイナスであった。病院数が多くとも、高度の診療が可能な病院へのアクセスが円滑ではない地域は医療機能が分散されていると考えられ、集約化や連携など、医療サービス提供の効率性も AMI 死亡率と関連がある可能性が示唆された。

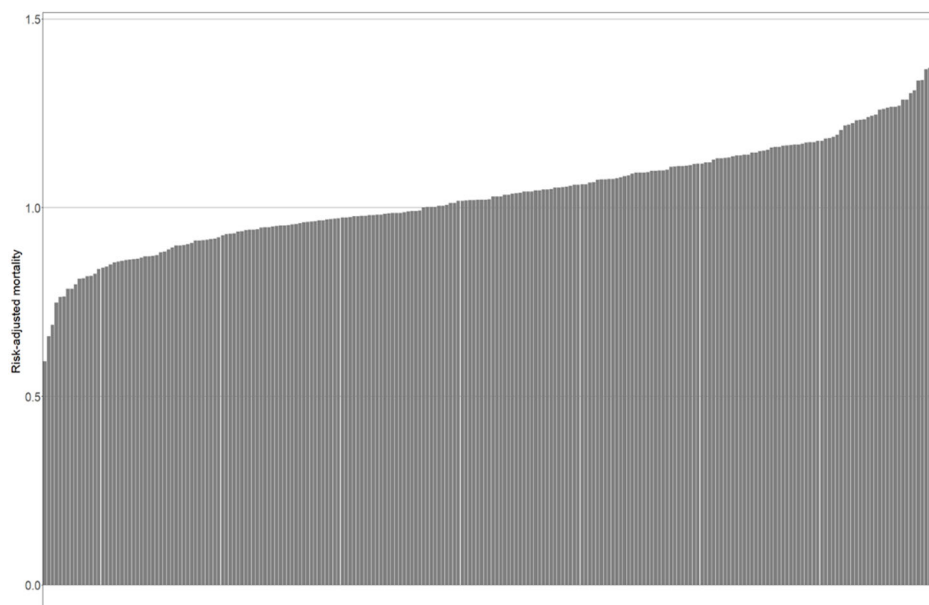


図 1. 二次医療圏単位の急性心筋梗塞に対するリスク調整死亡率.

(3) 地域医療システムの機能分化と連携の把握

①病棟医療機能の数値指標の開発と地域医療機能の把握：

2019年の病床機能報告（病棟票）より選択した項目を各病棟の稼働病床数で除し、その計を指標値とした。また、入院基本料における指標値の分布を可視化して閾値を設定し、高度急性期（指標値が閾値以上）の病棟数及び病床機能報告による高度急性期の病棟数を表示することで、その増減を把握できる方法を開発した。高度急性期病棟と報告していながら指標値が低い病棟、逆に急性期と報告していながら指標値の高い病棟があること、また指標値0となる病棟が存在した。本ツールを活用し、医療計画や地域の医療実態を鑑み、必要に応じて指標値の項目を変更することで、より適した指標値が作成できると期待される。

②医療システムにおける連携の可視化・数量化：脳梗塞の転院ネットワークより、急性・回復・療養期の機能を持つ医療機関から構成されている6個のコミュニティが特定された。急性期脳梗塞入院数は増加していない一方で転院数が増加しており医療機関間の連携が促進されていることが示された。

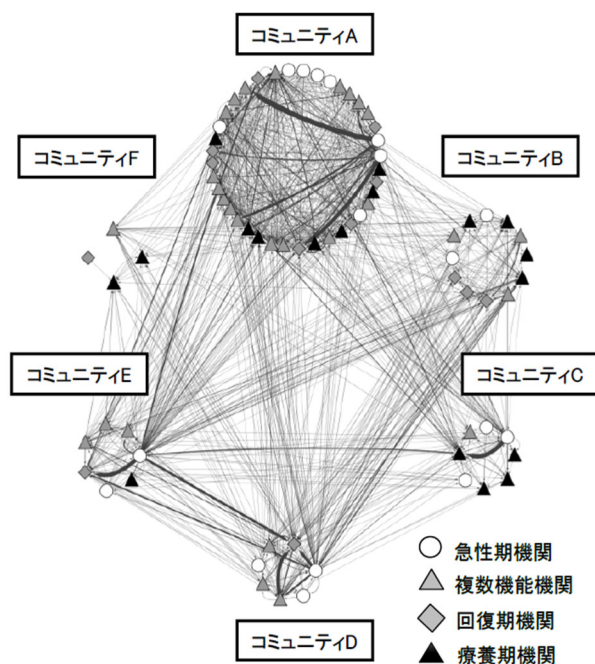


図2. コミュニティと医療機関の機能に関するネットワークの可視化

(4) 介護DBによる地域の健康余命（要介護度によるもの及び認知症自立度によるもの）およびその要因分析

認知症自立余命を要介護度1・2、認知症自立度1・2の各時点を基準として市町村、二次医療圏ごとに算出し、昨年度の知見から、二次医療圏における認知症高齢者の日常生活自立度2以上を不健康とした場合の認知症自立余命を指標として検討を進めた。健康余命及び認知症自立余命の地域差をグラフ、地図等で可視化した。

地域差の要因分析では、認知症自立余命の地域差と、社会環境や高齢者の置かれた状況等を二次医療圏単位で分析し、認知症自立余命と関連する要因の検討を行った。統計モデル

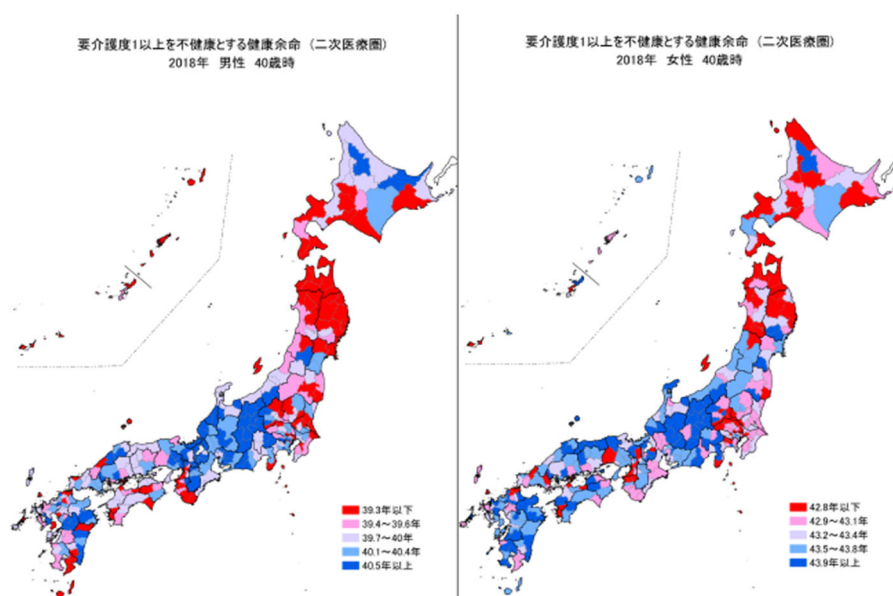


図3 要介護度を不健康とした健康余命（2018年）

は、Partial Least Square 回帰モデルを使用し、潜在因子ならびに回帰係数を算出した。潜在因子は、人口、人口密度が高く、短大以上卒業者割合が高い(因子 1)、老年人口や自動車通勤者割合が高く、単独世帯割合が低い(因子 2)、第 3 次産業就業者割合や歯科診療所数が多く、第 2 次産業就業者割合が低い(因子 3)がみられた。因子 1 の地域は都市部の特徴、因子 2 は地方部の特徴が強いことから、男性は因子 1 の負荷が高いほど、すなわち都市部の特徴が強い地域ほど認知症自立余命が長い傾向があることが見られた。一方で、女性の認知症自立余命は都市部の特徴に近い因子 1 の負荷とは関係なく、男性の認知症自立余命が女性より居住地の特徴に大きく影響されることが示唆される。回帰係数は、男女ともに、認知症自立余命と、65 歳以上人口あたり認知症サポーター数、短大以上卒割合が認知症自立余命と正に、15 歳以上人口あたりたばこ税が負に関連した。男性は、核家族世帯中母子世帯割合、完全失業者割合がともに負に関連した。女性は、第 1 次産業就業者割合、人口あたり病院数が正に関連した。なお、市町村単位の健康余命は、人口規模の小さな町村では極端な値となりそのままでは検討が難しかったが、Shrinkage estimation 法を用い、人口規模の小さな町村の健康余命が測定できるようになった。

4.2. 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト、今後の展望

(1) 地域医療システムの質指標算出

NDB を用いて AMI と脳梗塞に対する二次医療圏単位の医療システムの質指標を算出した。NDB より全国的な医療の質指標を算出し、可視化することが可能で、算出した指標は、地域医療計画の協議への活用が期待される。

(2) 地域ごとに健康・医療・介護のパフォーマンスの要因構造の解明

二次医療圏の AMI 患者のリスク調整死亡率には、都市部と地方部の差、医療資源の量では説明できない関連因子が存在した。地域医療の質を計測することの重要性、そして、地域医療の質を高めるため、医療提供の効率性の重要性が示唆された。

(3) 地域医療システムの機能分化と連携の把握

①**病棟医療機能の数値指標の開発と地域医療機能の把握**：全国で標準化された病床機能報告を用い、病棟機能を定量化し、二次医療圏ごとに病棟医療機能、高度急性期・急性期等の病棟・病床数を計測し、機能区分ごとの地域内分布を示すことが可能となった。この成果を活用できるよう、様々な機能区分で可視化を可能とするツールを開発した。これにより、病床機能報告(病棟票)から任意の項目を選択することで指標値を自動作成できるので、項目の組み合わせと重みづけを変更することで各都道府県の実情に応じた指標値の設定が可能である。また、病床機能報告に記載された実績を元としているため客観的であり、閾値の設定も自在に変更可能であり、病棟・病床数の分布の把握を容易に行えることが強みである。各都道府県や地域医療のステークホルダーが医療実態を鑑み、地域医療の機能の分担や連携を協議することに活用できる仕組みとして期待できる。

②**医療システムにおける連携の可視化・数量化**：レセプトデータを用いたネットワーク分析を用いて脳梗塞入院医療連携の実態を可視化し、脳梗塞治療のコミュニティを特定した。ネットワーク分析は今後、医療連携に関する評価や政策の検討に資する可能性がある。

(4) 介護 DB による地域の健康余命(要介護度によるもの及び認知症自立度によるもの) およびその要因分析

認知症高齢者の日常生活自立度データを活用して算出した地域毎の健康余命指標を可視化し、地域差の要因分析を行った。健康余命指標が確立し、健康余命の関連要因を同定することで、今後、認知症諸施策の包括的な評価体系を構築することが可能となる。

表 1 PLS 回帰係数 中心化・標準化した回帰係数のうち絶対値が上位の変数

	変数	回帰係数	中心化・標準化した係数
男性	65 歳以上人口あたり認知症サポーター数	0.698	0.136
	短大以上卒割合	0.010	0.130
	核家族世帯中母子世帯割合	-0.117	-0.136
	完全失業者割合	-0.092	-0.138
	15 歳以上人口あたりたばこ税	-0.072	-0.196
女性	65 歳以上人口あたり認知症サポーター数	0.439	0.083
	短大以上卒割合	0.005	0.063
	第 1 次産業就業者割合	0.006	0.076
	10 万人あたり病院数	0.009	0.064
	15 歳以上人口あたりたばこ税	-0.041	-0.107

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計54件（うち査読付論文 49件 / うち国際共著 9件 / うちオープンアクセス 40件）

1. 著者名 Takahashi Hiromichi, Terada Iori, Higuchi Takuya, Takada Daisuke, Shin Jung-ho, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 17
2. 論文標題 The relationship between new PCR positive cases and going out in public during the COVID-19 epidemic in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0266342
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0266342	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagano Hiroyuki, Shin Jung-ho, Morishita Tetsuji, Takada Daisuke, Kunisawa Susumu, Fushimi Kiyohide, Imanaka Yuichi	4. 巻 16
2. 論文標題 Hospitalization for ischemic stroke was affected more in independent cases than in dependent cases during the COVID-19 pandemic: An interrupted time series analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0261587
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0261587	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morishita Tetsuji, Takada Daisuke, Shin Jung ho, Higuchi Takuya, Kunisawa Susumu, Fushimi Kiyohide, Imanaka Yuichi	4. 巻 9
2. 論文標題 Effects of the COVID 19 pandemic on heart failure hospitalizations in Japan: interrupted time series analysis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ESC Heart Failure	6. 最初と最後の頁 31 ~ 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ehf2.13744	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe Shusuke, Shin Jung-ho, Morishita Tetsuji, Takada Daisuke, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Medium-Term Impact of the Coronavirus Disease 2019 Pandemic on the Practice of Percutaneous Coronary Interventions in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.63194	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okuno Takuya、Itoshima Hisashi、Shin Jung-ho、Morishita Tetsuji、Kunisawa Susumu、Imanaka Yuichi	4. 巻 16
2. 論文標題 Physical restraint of dementia patients in acute care hospitals during the COVID-19 pandemic: A cohort analysis in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0260446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0260446	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mukai Takuya、Tsumumi Takahiko、Takaishi Emi、Hamada Osamu、Sasaki Susumu、Shimokawa Toshio、Imanaka Yuichi	4. 巻 17
2. 論文標題 Nurse Practitioner's Geriatric Practice in Japanese Postacute Care Setting	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal for Nurse Practitioners	6. 最初と最後の頁 1250 ~ 1255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.nurpra.2021.08.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Segawa Hiromi Kohori、Uematsu Hironori、Dorji Nidup、Wangdi Ugyen、Dorjee Chencho、Yangchen Pemba、Kunisawa Susumu、Sakamoto Ryota、Imanaka Yuichi	4. 巻 16
2. 論文標題 Gender with marital status, cultural differences, and vulnerability to hypertension: Findings from the national survey for noncommunicable disease risk factors and mental health using WHO STEPS in Bhutan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0256811
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0256811	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kishimoto Kenji、Kunisawa Susumu、Fushimi Kiyohide、Imanaka Yuichi	4. 巻 18
2. 論文標題 Individual and Nationwide Costs for Cancer Care During the First Year After Diagnosis Among Children, Adolescents, and Young Adults in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JCO Oncology Practice	6. 最初と最後の頁 e351 ~ e359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1200/OP.21.00364	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umegaki Takeshi, Kunisawa Susumu, Nishimoto Kota, Nakajima Yasufumi, Kamibayashi Takahiko, Imanaka Yuichi	4. 巻 36
2. 論文標題 Paraplegia After Open Surgical Repair Versus Thoracic Endovascular Aortic Repair for Thoracic Aortic Disease: A Retrospective Analysis of Japanese Administrative Data	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia	6. 最初と最後の頁 1021 ~ 1028
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1053/j.jvca.2021.07.043	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Jung-ho, Lin Huei-Ru, Imanaka Yuichi	4. 巻 1
2. 論文標題 The impact of COVID-19 on the Japanese healthcare system and comparison of its mitigation measures with South Korea and Taiwan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IJQHC Communications	6. 最初と最後の頁 lyab008
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ijcoms/lyab008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Bun Seiko, Kishimoto Kenji, Shin Jung-ho, Maekawa Takanobu, Takada Daisuke, Morishita Tetsuji, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 70
2. 論文標題 Impact of the COVID-19 pandemic on asthma exacerbations in children: A multi-center survey using an administrative database in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Allergology International	6. 最初と最後の頁 489 ~ 491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.alit.2021.06.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Charani Esmita, McKee Martin, Ahmad Raheelah, Balasegaram Manica, Bonaconsa Candice, Merrett Gemma Buckland, Busse Reinhard, Carter Vanessa, Castro-Sanchez Enrique, Franklin Bryony D, Georgiou Pantelis, Hill-Cawthorne Kerri, Hope William, Imanaka Yuichi, Kambugu Andrew, Leather Andrew JM, Mbamalu Oluchi, McLeod M	4. 巻 7
2. 論文標題 Optimising antimicrobial use in humans ? review of current evidence and an interdisciplinary consensus on key priorities for research	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Lancet Regional Health - Europe	6. 最初と最後の頁 100161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.lanepe.2021.100161	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Itoshima Hisashi、Shin Jung-ho、Takada Daisuke、Morishita Tetsuji、Kunisawa Susumu、Imanaka Yuichi	4. 巻 11
2. 論文標題 The impact of the COVID-19 epidemic on hospital admissions for alcohol-related liver disease and pancreatitis in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 14054
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-92612-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teraoka Emi、Kunisawa Susumu、Imanaka Yuichi	4. 巻 21
2. 論文標題 Trajectories of end-of-life medical and long-term care expenditures for older adults in Japan: retrospective longitudinal study using a large-scale linked database of medical and long-term care claims	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 403
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-021-02215-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 國澤進	4. 巻 69
2. 論文標題 自治体レベルでの将来人口推計の検証	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 厚生指標	6. 最初と最後の頁 1~8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 音喜多智、徳富智哉、慎重虎、今中雄一	4. 巻 335
2. 論文標題 東京オリンピック・パラリンピック期間前後の人流 ~年代・地域による差異に着目して~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ESTRELA	6. 最初と最後の頁 26~29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 慎重虎、林慧茹、今中雄一	4. 巻 2822
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症の医療システムへの影響と対策・政策の日韓台比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会保険旬報	6. 最初と最後の頁 18～25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagano Hiroyuki, Takada Daisuke, Shin Jung-ho, Morishita Tetsuji, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 106
2. 論文標題 Hospitalization of mild cases of community-acquired pneumonia decreased more than severe ones during the COVID-19 epidemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 323～328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijid.2021.03.074	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kishimoto Kenji, Bun Seiko, Shin Jung-ho, Takada Daisuke, Morishita Tetsuji, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 180
2. 論文標題 Early impact of school closure and social distancing for COVID-19 on the number of inpatients with childhood non-COVID-19 acute infections in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Journal of Pediatrics	6. 最初と最後の頁 2871～2878
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00431-021-04043-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okuno Takuya, Takada Daisuke, Shin Jung-ho, Morishita Tetsuji, Itoshima Hisashi, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 51
2. 論文標題 Surgical volume reduction and announcement of triage during the 1st wave of the covid-19 pandemic in Japan: a cohort study using interrupted time series analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Surgery Today	6. 最初と最後の頁 1843～1850
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00595-021-02286-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morishita Tetsuji, Takada Daisuke, Shin Jung-ho, Higuchi Takuya, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 29
2. 論文標題 Trends, Treatment Approaches, and In-Hospital Mortality for Acute Coronary Syndrome in Japan During the Coronavirus Disease 2019 Pandemic	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	6. 最初と最後の頁 597 ~ 607
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5551/jat.62746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Jung-ho, Mizuno Seiko, Okuno Takuya, Itoshima Hisashi, Sasaki Noriko, Kunisawa Susumu, Kaku Mitsuo, Yoshida Makiko, Gu Yoshiaki, Morii Daiichi, Shibayama Keigo, Ohmagari Norio, Imanaka Yuichi	4. 巻 21
2. 論文標題 Nationwide multicenter questionnaire surveys on countermeasures against antimicrobial resistance and infections in hospitals	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12879-021-05921-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okuno Takuya, Kunisawa Susumu, Fushimi Kiyohide, Imanaka Yuichi	4. 巻 16
2. 論文標題 Intra-operative autologous blood donation for cardiovascular surgeries in Japan: A retrospective cohort study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0247282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0247282	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Jung ho, Takada Daisuke, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 48
2. 論文標題 Effects of periodontal management for patients with type 2 diabetes on healthcare expenditure, hospitalization and worsening of diabetes: an observational study using medical, dental and pharmacy claims data in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Periodontology	6. 最初と最後の頁 774 ~ 784
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jcpe.13441	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Okuno T, Takada D, Shin J -H, Morishita T, Itoshima H, Kunisawa S, Imanaka Y	4. 巻 108
2. 論文標題 Impact of the early stage of the coronavirus disease 2019 pandemic on surgical volume in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 British Journal of Surgery	6. 最初と最後の頁 e173 ~ e174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/bjs/znab028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takada Daisuke, Kunisawa Susumu, Kikuno Akira, Iritani Tomoko, Imanaka Yuichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Stages of a transtheoretical model as predictors for the decline of estimated glomerular filtration rate: a retrospective cohort study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200422	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Jung-ho, Takada Daisuke, Morishita Tetsuji, Lin Hueiru, Bun Seiko, Teraoka Emi, Okuno Takuya, Itoshima Hisashi, Nagano Hiroyuki, Kishimoto Kenji, Segawa Hiromi, Asami Yuka, Higuchi Takuya, Minato Kenta, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 15
2. 論文標題 Economic impact of the first wave of the COVID-19 pandemic on acute care hospitals in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0244852
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0244852	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Otokita S, Uematsu H, Kunisawa S, Sasaki N, Fushimi K, Imanaka Y	4. 巻 53
2. 論文標題 Impact of rehabilitation start time on functional outcomes after stroke	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Rehabilitation Medicine	6. 最初と最後の頁 jrm00145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2340/16501977-2775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Naylor Nichola R., Yamashita Kazuto, Iwami Michiyo, Kunisawa Susumu, Mizuno Seiko, Castro-Sánchez Enrique, Imanaka Yuichi, Ahmad Raheelah, Holmes Alison	4. 巻 8
2. 論文標題 Code-Sharing in Cost-of-Illness Calculations: An Application to Antibiotic-Resistant Bloodstream Infections	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Public Health	6. 最初と最後の頁 562427
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpubh.2020.562427	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Braithwaite Jeffrey, Vincent Charles, Garcia-Elorrio Ezequiel, Imanaka Yuichi, Nicklin Wendy, Sodzi-Tetty Sodzi, Bates David W.	4. 巻 18
2. 論文標題 Transformational improvement in quality care and health systems: the next decade	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Medicine	6. 最初と最後の頁 340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12916-020-01739-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Groenewoud A. Stef, Sasaki Noriko, Westert Gert P., Imanaka Yuichi	4. 巻 99
2. 論文標題 Preferences in end of life care substantially differ between the Netherlands and Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Medicine	6. 最初と最後の頁 e22743
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000022743	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasaki Noriko, Yamaguchi Naohito, Okumura Akiko, Yoshida Masahiro, Sugawara Hiroyuki, Shin Jung-ho, Kunisawa Susumu, Imanaka Yuichi	4. 巻 15
2. 論文標題 Factors affecting the use of clinical practice guidelines by hospital physicians: the interplay of IT infrastructure and physician attitudes	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Implementation Science	6. 最初と最後の頁 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13012-020-01056-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Uematsu Hironori、Yamashita Kazuto、Kunisawa Susumu、Imanaka Yuichi	4. 巻 59
2. 論文標題 Prediction model for prolonged length of stay in patients with community-acquired pneumonia based on Japanese administrative data	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Respiratory Investigation	6. 最初と最後の頁 194 ~ 203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.resinv.2020.08.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohori-Segawa Hiromi、Dorji Chencho、Dorji Kunzang、Wangdi Ugyen、Dema Chimi、Dorji Yankha、Musumari Patou Masika、Techasrivichien Teeranee、Watanabe Sonia Pilar Sugimoto、Sakamoto Ryota、Ono-Kihara Masako、Kihara Masahiro、Imanaka Yuichi	4. 巻 15
2. 論文標題 A qualitative study on knowledge, perception, and practice related to non-communicable diseases in relation to happiness among rural and urban residents in Bhutan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0234257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0234257	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shin Jung-ho、Kunisawa Susumu、Imanaka Yuichi	4. 巻 126
2. 論文標題 New outcome-specific comorbidity scores excelled in predicting in-hospital mortality and healthcare charges in administrative databases	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Epidemiology	6. 最初と最後の頁 141 ~ 153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jclinepi.2020.06.011	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada Daisuke、Kunisawa Susumu、Matsubara Takeshi、Fushimi Kiyohide、Yanagita Motoko、Imanaka Yuichi	4. 巻 24
2. 論文標題 Developing and validating a multivariable prediction model for in-hospital mortality of pneumonia with advanced chronic kidney disease patients: a retrospective analysis using a nationwide database in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Clinical and Experimental Nephrology	6. 最初と最後の頁 715 ~ 724
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10157-020-01887-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Tatsuichiro, Otsubo Tetsuya, Kunisawa Susumu, Sasaki Noriko, Imanaka Yuichi	4. 巻 40
2. 論文標題 Factors associated with high dose antipsychotic prescriptions in outpatients with schizophrenia: An analysis of claims data from a Japanese prefecture	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Neuropsychopharmacology Reports	6. 最初と最後の頁 224 ~ 231
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/npr2.12109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺岡英美、慎重虎、國澤進、今中雄一	4. 巻 2810
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症流行と病院診療報酬についての検討 QIP参加病院のDPCデータを用いた影響の評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会保険旬報	6. 最初と最後の頁 30 ~ 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木典子、國澤進、今中雄一	4. 巻 70
2. 論文標題 高齢者の年間医療費集中度と医療費総額上位者の診療内容 レセプトデータによる記述調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 保健医療科学	6. 最初と最後の頁 166 ~ 173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今中雄一	4. 巻 35
2. 論文標題 超高齢社会日本の医療モデルの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BIO Clinica	6. 最初と最後の頁 28 ~ 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirota Yoshito, Kunisawa Susumu, Fushimi Kiyohide, Imanaka Yuichi	4. 巻 20
2. 論文標題 Association between clinic physician workforce and avoidable readmission: a retrospective database research	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Health Services Research	6. 最初と最後の頁 125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12913-020-4966-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Umegaki Takeshi, Kunisawa Susumu, Nishimoto Kota, Kamibayashi Takahiko, Imanaka Yuichi	4. 巻 10
2. 論文標題 Effectiveness of combined antithrombin and thrombomodulin therapy on in-hospital mortality in mechanically ventilated septic patients with disseminated intravascular coagulation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 4874
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-61809-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Muguruma Kohei, Kunisawa Susumu, Fushimi Kiyohide, Imanaka Yuichi	4. 巻 7
2. 論文標題 Epidemiology and volume outcome relationship of extracorporeal membrane oxygenation for respiratory failure in Japan: A retrospective observational study using a national administrative database	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acute Medicine & Surgery	6. 最初と最後の頁 e486
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/ams2.486	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morii Daiichi, Tomono Kazunori, Imanaka Yuichi	4. 巻 48
2. 論文標題 Economic impact of antimicrobial-resistant bacteria outbreaks on Japanese hospitals	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 American Journal of Infection Control	6. 最初と最後の頁 1195 ~ 1199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajic.2019.12.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Lin Huei-Ru, Imanaka Yuichi	4. 巻 21
2. 論文標題 Effects of Copayment in Long-term Care Insurance on Long-term Care and Medical Care Expenditure	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the American Medical Directors Association	6. 最初と最後の頁 640-646
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jamda.2019.08.021	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasaki Noriko, Groenewoud Stef, Kunisawa Susumu, Westert Gert, Imanaka Yuichi	4. 巻 98
2. 論文標題 Public needs for information disclosure on healthcare performance: Different determinants between Japan and the Netherlands	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medicine	6. 最初と最後の頁 e17690
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000017690	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Bun Seiko, Kunisawa Susumu, Sasaki Noriko, Fushimi Kiyohide, Matsumoto Kimikazu, Yamatani Akimasa, Imanaka Yuichi	4. 巻 8
2. 論文標題 Analysis of concordance with antiemetic guidelines in pediatric, adolescent, and young adult patients with cancer using a large scale administrative database	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer Medicine	6. 最初と最後の頁 6243-6249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cam4.2486	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsutsumi Ikuyo, Kunisawa Susumu, Yoshida Chikashi, Seki Masanori, Komeno Takuya, Fushimi Kiyohide, Morita Satoshi, Imanaka Yuichi	4. 巻 24
2. 論文標題 Impact of oral voriconazole during chemotherapy for acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndrome: a Japanese nationwide retrospective cohort study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 1449-1458
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-019-01506-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakabe Takayo, Sasaki Noriko, Uematsu Hironori, Kunisawa Susumu, Wimo Anders, Imanaka Yuichi	4. 巻 9
2. 論文標題 Classification tree model of the personal economic burden of dementia care by related factors of both people with dementia and caregivers in Japan: a cross-sectional online survey	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e026733
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-026733	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasaki Noriko, Yamaguchi Naohito, Okumura Akiko, Yoshida Masahiro, Sugawara Hiroyuki, Imanaka Yuichi	4. 巻 9
2. 論文標題 Does hospital information technology infrastructure promote the implementation of clinical practice guidelines? A multicentre observational study of Japanese hospitals	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e024700
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-024700	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shin Jung-ho, Kunisawa Susumu, Fushimi Kiyohide, Imanaka Yuichi	4. 巻 98
2. 論文標題 Effects of preoperative oral management by dentists on postoperative outcomes following esophagectomy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medicine	6. 最初と最後の頁 e15376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000015376	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanke Marit A. C., Feyman Yevgeniy, Bernal-DeIgado Enrique, Deeny Sarah R., Imanaka Yuichi, Jeurissen Patrick, Lange Laura, Pimperl Alexander, Sasaki Noriko, Schull Michael, Wammes Joost J. G., Wodchis Walter P., Meyer Gregg S.	4. 巻 14
2. 論文標題 A challenge to all. A primer on inter-country differences of high-need, high-cost patients	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0217353
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0217353	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 内藤優美、後藤悦、林慧茹、原広司、佐々木典子、今中雄一	4. 巻 57
2. 論文標題 要介護データを用いた二次医療圏レベルの健康寿命（平均自立期間）の算出および関連要因の探索	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医療・病院管理学会誌	6. 最初と最後の頁 2-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11303/jsha.57.2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 弘田義人、六車耕平、今中雄一	4. 巻 57
2. 論文標題 日本における医療の費用効果分析・費用便益分析の実態：36年間の推移	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本医療・病院管理学会誌	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11303/jsha.57.11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計76件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 Imanaka Yuichi
2. 発表標題 COVID-19 impact on Japan healthcare system & suggestions of strategic framework for resilient societies
3. 学会等名 Bridging Japan-UK Online Symposium 2022: Reviewing the pandemic responses in Japan, UK and the rest of the world (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 今中雄一
2. 発表標題 包括的な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）施策・政策のフレームワーク構築へ
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樋口拓哉, 慎重虎, 高田大輔, 今中雄一
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症入院患者へのステロイド処方の推移
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤悦, 慎重虎, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 認知症高齢者の日常生活自立度を用いた健康余命の全国諸地域での算出
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉川美佳子, 後藤悦, 慎重虎, 今中雄一
2. 発表標題 全国諸地域の健康余命の関連因子：認知症高齢者の生活自立度を用いた健康余命の解析
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 瀬川裕美, 慎重虎, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 未就学児と同居している女性のCOVID-19による精神的健康状態と日常生活への影響
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 湊健太, 慎重虎, 奥野琢也, 今中雄一
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症第1波が高齢者脆弱性骨折に与えた影響
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原広司, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 介護事業所の組織文化と利用者QOL の経年変化との関連
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 デイサービス利用者と家族介護者のQOL、介護負担感との関連
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 林慧茹, 瀬川裕美, 慎重虎, 今中雄一
2. 発表標題 COVID-19パンデミック下の介護施設から急性期病院へ入院の分割時系列解析
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊周介, 慎重虎, 高田大輔, 今中雄一
2. 発表標題 冠動脈カテーテルインターベンションの実施への新型コロナウイルス感染症の流行の影響
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Khatoun Abbas, Shin Jung-ho, Sasaki Noriko, Imanaka Yuichi
2. 発表標題 Quantitative Evaluation of Broad-Spectrum Antibiotic Use at Hospital Level
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 奥野琢也, 慎重虎, 高田大輔, 糸島尚, 今中雄一
2. 発表標題 Physical restraint of dementia patients during the COVID-19 pandemic in Japan
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Imanaka Yuichi
2. 発表標題 Transforming COVID-19 Impact into Resilient & "Symbiotic" Health System and Healthy Society
3. 学会等名 "Post ISQua Highlight" International Webinar by Taiwan Healthcare Quality Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ohki Y, Ikeda Y, Kunisawa S and Imanaka Y
2. 発表標題 Healthcare cooperation network constructed using patient claims data in Japan
3. 学会等名 The 10th International Conference on Complex Networks and their Applications (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今中雄一
2. 発表標題 包括的な COVID-19 施策・政策のフレームワークと提案
3. 学会等名 日本計画行政学会第44回全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Imanaka Yuichi
2. 発表標題 Data-driven Planning for Healthy Cities
3. 学会等名 The 9th Global Conference of the Alliance for Healthy Cities (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森佳奈恵, 慎重虎, 伏見清秀, 今中雄一
2. 発表標題 高齢患者における心臓血管手術前のベンゾジアゼピン系睡眠導入剤内服と術後せん妄との関連：DPCデータを用いた分析
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡田理沙, 後藤悦, 慎重虎, 佐々木典子, 今中雄一
2. 発表標題 認知症グループホーム利用の地域差
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寺田伊織, 慎重虎, 今中雄一
2. 発表標題 ネットワーク分析を用いた急性期脳梗塞患者の転院に関する経路の可視化と経年変化
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 介護職員の職務満足度および精神的健康状態の経時的変化と関連要因の検討
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 原広司, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 介護サービス利用者におけるQOLスコアの経年変化
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長野広之, 慎重虎, 森下哲司, 高田大輔, 國澤進, 伏見清秀, 今中雄一
2. 発表標題 Hospitalization for ischemic stroke was affected more in independent cases than in dependent cases during the COVID-19 pandemic: an interrupted time series analysis
3. 学会等名 医療経済学会第16回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 糸島尚, 慎重虎, 國澤進, 今中 雄一
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 流行の日本におけるがん診療への影響: 大規模DPCデータの分割時系列分析
3. 学会等名 医療経済学会第16回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Imanaka Yuichi
2. 発表標題 COVID-19 impact on Japan healthcare system & Comparison of COVID-19 policy and measures among Taiwan, South Korea and Japan
3. 学会等名 ISQua's 37th International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今中雄一
2. 発表標題 医療の質、病院の質、地域医療システムの質
3. 学会等名 第71回日本病院学会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今中雄一
2. 発表標題 ビッグデータに基づく脳卒中の地域医療システム再構築の推進〔指定シンポジウム〕
3. 学会等名 第46回日本脳卒中学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 慎重虎，高田大輔，今中雄一
2. 発表標題 急性期病院における新型コロナウイルス感染症の経済的影響
3. 学会等名 第31回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今中雄一
2. 発表標題 健康(Well-Being)志向の社会システム設計・再構築へ（Design & Restructure Social System for Well-Being）〔指定パネルセッション〕
3. 学会等名 第2回 超高齢化社会の課題を解決するための国際会議(The 2nd Nikkei Super Active Ageing Society Conference)（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原広司，後藤悦，佐伯みか，村田和男，田中紀雄，森剛士，斎藤正行，今中雄一
2. 発表標題 COVID-19蔓延によるデイサービスの長期欠席が運動機能とADLに及ぼす影響
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐伯みか, 原広司, 後藤悦, 森剛士, 今中雄一
2. 発表標題 COVID-19蔓延によるデイサービス欠席が歩行機能に及ぼす影響
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 介護事業所における職員の精神的健康状態と利用者のQOL、組織文化との関連
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤悦, 原広司, 佐伯みか, 森剛士, 斎藤正行, 今中雄一
2. 発表標題 通所リハビリテーションにおけるTimed Up & Go維持改善の要因分析
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田大輔, 國澤進, 菊野朗, 入谷智子, 今中雄一
2. 発表標題 従事産業による腎機能低下リスク：健診受診者大規模データ解析
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林慧茹, 亀山悟, 高柳智美, 池田(園田)紫乃, 高橋新, 一原直昭, 宮田裕章, 今中雄一
2. 発表標題 機械学習を用いた医療・介護・健診・所得からの個人将来要介護度予測に関する研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐々木典子, 吉田雅博, 山口直人, 奥村晃子, 菅原浩幸, 慎重虎, 今中雄一
2. 発表標題 若手医師の診療ガイドライン活用の関連要因 教育、電子媒体への嗜好と病院IT環境
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 慎重虎, 佐々木典子, 今中雄一
2. 発表標題 急性心筋梗塞患者におけるPCI実施割合の地域差とその関連要因：NDBを用いた分析
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瀬川裕美, 坂本龍太, 今中雄一
2. 発表標題 精神的健康状態と自殺企図の要因～ブータン王国第三次国民総幸福量調査より～
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 糸島尚, 慎重虎, 今中雄一
2. 発表標題 免疫化学療法時の固形腫瘍患者へのB 型肝炎ウイルスのスクリーニングと再活性化の検討
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 文靖子, 佐々木典子, 伏見清秀, 今中雄一
2. 発表標題 小児がん領域における制吐剤ガイドラインの一致率と疾患の関連調査
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田和輝, 原広司, 津田博史, 田中将之, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 患者満足度の自然言語処理における感情分析モデルの有効性の検証と判定
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今中雄一
2. 発表標題 健康医療介護の未来づくり：社会的協働（学会長講演）
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今中雄一
2. 発表標題 健康医療介護の質・効率・公正の可視化とシステム再構築：レセプト情報等大規模データベースの解析と活用〔指定シンポジウム〕
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 林慧茹，亀山悟，高柳智美，今中雄一
2. 発表標題 人工知能による介護・医療・健診・税賦課データを用いた個人の将来介護費と医療費の予測モデル開発
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 慎重虎，佐々木典子，國澤進，今中雄一
2. 発表標題 NDBを用いた地域医療システムの質指標の算出
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 慎重虎，佐々木典子，國澤進，今中雄一
2. 発表標題 抗菌薬の院内使用基準が市中肺炎患者の診療ガイドライン推奨抗菌薬の選択に及ぼす影響、およびその抗菌薬選択がアウトカムに及ぼす影響
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 糸島尚, 慎重虎, 佐々木典子, 國澤進, 今中雄一
2. 発表標題 肝硬変を伴う上部消化管出血患者への予防的抗菌薬の効果：DPCデータ分析
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一
2. 発表標題 介護事業所におけるクライシスマネジメントと組織文化との関連
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田和輝, 原広司, 津田博史, 田中将之, 中部貴央, 今中雄一
2. 発表標題 満足度調査の自然言語処理による患者が注目する領域の同定
3. 学会等名 第58回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 慎重虎, 國澤進, 今中雄一
2. 発表標題 2型糖尿病患者における歯周疾患の管理が医療費、入院、重症化に及ぼす影響
3. 学会等名 医療経済学会 第15回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高田大輔, 國澤進, 菊野朗, 入谷智子, 今中雄一
2. 発表標題 行動変容のstageの高さはその後の腎機能低下のリスク低下と関連する
3. 学会等名 第63回日本腎臓学会学術総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 瀨川裕美, Chenchu D, Nidup D, Ugyen W, Pemba Y, 上松弘典, 國澤進, 坂本龍太, 慎重虎, 今中雄一
2. 発表標題 ブータン国内の高血圧リスクの背景要因分析検討:Bhutan-Non Communicable Diseases Risk Factors: STEPS Survey Bhutan 2014を用いて.
3. 学会等名 第34回日本国際保健医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木典子, 今中雄一.
2. 発表標題 実装の科学・技術と診療ガイドライン. 診療ガイドラインと医療の質・QIで目指すData-Driven Health.
3. 学会等名 第39回医療情報学連合大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中部貴央, 竹内治.
2. 発表標題 医療紛争における裁判外紛争解決(ADR)での相談前置のあり方 相談利用者ならびに相談委員への調査結果から
3. 学会等名 日本医事法学会第49回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 慎重虎, 佐々木典子, 國澤進, 弘田義人, 今中雄一.
2. 発表標題 『術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン』の遵守に影響を及ぼす病院診療科レベルの要因の検討 - 調査票調査とDPCデータを用いた分析 - .
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原広司, 中部貴央, 今中雄一.
2. 発表標題 介護職員の職務満足と組織文化・職場環境との関係.
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一.
2. 発表標題 介護事業所における組織文化の構造に関する検討.
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木竣平, 原広司, 烏帽子田彰, 今中雄一.
2. 発表標題 地域枠を考慮した都道府県別医師数の将来推計.
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田大輔, 伏見清秀, 今中雄一.
2. 発表標題 機械学習やスパースモデリングなどの統計的手法による肺炎院内死亡予測精度の違い.
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中部貴央, 原広司, 今中雄一.
2. 発表標題 介護サービス利用者のQOL・精神的健康状態への関連要因の探索(第1報).
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原広司, 中部貴央, 今中雄一.
2. 発表標題 介護サービス利用者のサービス満足および精神的健康と職員の組織文化との関連(第2報).
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀬川裕美, Chenchu D, Nidup D, Ugyen W, Pemba Y, 坂本龍太, 慎重虎, 今中雄一.
2. 発表標題 ブータン王国のNCD-STEPS-Surveyを用いた、健康行動に関わる背景要因の検討.
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 慎重虎, 佐々木典子, 今中雄一.
2. 発表標題 CABGにおける予防抗菌薬投与のガイドラインの推奨自体の相違とSSI発症との関連.
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林慧茹, 瀬川裕美, 今中雄一.
2. 発表標題 介護サービス利用の組合せによる、深層学習を用いた要介護度変化の予測モデル構築.
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堤育代, 三浦由希子, 関正則, 吉田近思, 米野琢哉, 今中雄一.
2. 発表標題 臨床研究法が日本の臨床研究に及ぼす影響: 分割時系列分析.
3. 学会等名 第81回日本血液学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Bun S, Kunisawa S, Sasaki N, Matsumoto K, Yamatani A, Imanaka Y.
2. 発表標題 High intensity end-of-life care in pediatrics, adolescent and young adult (AYA) patients with cancer using an administrative database.
3. 学会等名 European Society for Medical Oncology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Segawa H, Chencho D, Nidup D, Ugyen W, Pemba Y, Sakamoto R, Imanaka Y.
2. 発表標題 Non communicable disease prevention and happiness measures in Bhutan
3. 学会等名 MMIRA Asia Regional Conference 2019 / The 5th JSMMR Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 慎重虎, 國澤進, 今中雄一.
2. 発表標題 院内死亡、医療費および在院日数の予測におけるCharlson、Elixhauser、combination併存疾患指数の算出とその活用方法の比較：DPCデータを用いた研究.
3. 学会等名 医療経済学会 第14回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakabe T, Imanaka Y.
2. 発表標題 How much healthcare resource should be allocated per person under the sustainable insurance system?: Qualitative review from medical, economic, and ethical perspectives.
3. 学会等名 25th World Association for Medical Law (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hara K, Nakabe T, Naka T, Tanaka M, Imanaka Y.
2. 発表標題 Visualizing organizational culture in old people's homes and hospitals in Japan: Human interaction in the IoT era.
3. 学会等名 HCI international 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田大輔, 國澤進, 伏見清秀, 今中雄一.
2. 発表標題 透析患者の肺炎院内死亡における予後予測因子としてのBMI.
3. 学会等名 第64回日本透析医学会学術集会・總會
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Imanaka Y.
2. 発表標題 Healthcare Accreditation by Japan Council for Quality Health Care (JQ).
3. 学会等名 Workshop on healthcare accreditation in APEC region project (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高田大輔, 國澤進, 松原雄, 柳田素子, 伏見清秀, 今中雄一.
2. 発表標題 CKD stage5/5D期患者におけるA-DROPIに変わる肺炎院内死亡予測モデルの作成と検証.
3. 学会等名 第62回日本腎臓学会学術總會
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 慎重虎, 國澤進, 伏見清秀, 今中雄一.
2. 発表標題 歯科医師による術前口腔管理が食道がん術後のアウトカムに及ぼす影響: 傾向スコア分析.
3. 学会等名 第73回日本食道学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teraoka E, Imanaka Y, Kunisawa S.
2. 発表標題 Trajectory of End-of-Life Medical and Long-Term Care Costs in Japanese Elderly: Analysis of a Large-Scale Linked Claims Database.
3. 学会等名 WONCA APR Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Imanaka Y.
2. 発表標題 Quality Challenge in Institutions and Regions for the Age of Sustainable Development.
3. 学会等名 International Forum, JCT 20th Anniversary (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>京都大学大学院医学研究科医療経済学分野ホームページ(日本語) http://med-econ.umin.ac.jp/works.html 京都大学大学院医学研究科医療経済学分野ホームページ(英語) http://med-econ.umin.ac.jp/int/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福田 治久 (FUKUDA haruhisa) (30572119)	九州大学・医学研究院・准教授 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	廣瀬 昌博 (HIROSE masahiro) (30359806)	島根大学・学術研究院医学・看護学系・特任教授 (15201)	
研究分担者	林田 賢史 (HAYASHIDA kenshi) (80363050)	産業医科大学・大学病院・医療情報部長 (37116)	
研究分担者	猪飼 宏 (IKAI hiroshi) (70522209)	京都府立医科大学・医学(系)研究科(研究院)・教授 (24303)	
研究分担者	村上 玄樹 (MURAKAMI genki) (50549756)	産業医科大学・大学病院・講師 (37116)	
研究分担者	國澤 進 (KUNISAWA susumu) (00732877)	京都大学・医学研究科・准教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	ダートマス大学	ハーバード大学		
カナダ	トロント大学	サニールック研究所		
オランダ	ラドバウド大学	エラスムス大学		
英国	インペリアル・カレッジ・ロンドン	ヘルスファウンデーション	オックスフォード大学	
スウェーデン	カロリンスカ研究所			